

— 盛・美容外科院長 医学博士 盛虹明

単に美しくなるだけじゃない。自分に自信を持って生きようになる

「人が自分に自信を持って生きられるようになること。そのお手伝いをさせていただいているのが、私たち美容外科の仕事です」と、盛・美容外科の院長、盛虹明医学博士は語る。

例えば、ある日本人女性の患者さん。それまではみんなと写真に写るのを嫌がった。現像された写真に写った自分の姿を見るたび、「こんなにも老けていたのか」と自分だけが知らなかった本当の姿を見せつけられたようで、心に突き刺さった。自ずと人と会うのを避けるようになり、上海にいてもひとりで自宅にこもるようになっていた。

盛・美容外科で眼の瞼（まぶた）のたるみを取る手術を受ける。瞼だけの手術だったが顔全体が引き締まった表情となり、若返りも実感した。人は誰でも自信を取り戻した時、初めて変わっていきけるのだろう。いつの間にか女性は人が集まる場所にも積極的に出掛けるようになり、今では上海の生活を楽しんでいるという。

美容外科は、心の健康を取り戻すためのひとつの手段でもあるのだ。

患者さんが何を求めているのか、心の本当の欲求を探ることが大切

私たち日本人が「美容外科」、「美容整形」と聞いて一般的にイメージしてしまうのは、単に手術によって外見が美しく変わるというものだろう。だが、盛院長は「本来あるべき美容外科はいたずらにあちこちの手術を施すことではない」ときっぱり言う。

「私はまずはじめに、患者さんとじっくりとお話をさせていただいています。患者さんが自信を失っている部分は何なのかを探っていくためです」自信を失っている部分とは、必ずしも外見上の部分だけでない。場合によっては、その人の心の問題だったりすることもある。本当に施術が必要なのかどうか、必要となればその人らしく美しく、若返られるのはどんな施術なのかを、プロの視点からきっちりと見極めていく。

心のカウンセラーのように患者さんの声に耳を傾ける姿勢

手術ばかりをやたらと施す”儲け主義“がはびこる中、盛院長はあくまで患者本位の姿勢を貫く稀有な存在だ。単なる外見の変化を超えた、本当の美容外科の奥深さが盛院長にはある。

例えば、有名芸能人の写真と同じ眼にして欲しいと要望があったとしても、必ずしもその患者さん本人に合うとは限らないという。「芸能人のような顔になることが目的ではなく、患者自身も気づいていない、自分自身への自信を取り戻してあげることが目的のはずです」。まるで心のカウンセラーのように人の声に静かに耳を傾ける盛院長の穏やかな声が、多くの日本人から厚い信頼を受けるその姿勢を裏付けているかのようだ。

盛院長の高度な技術に裏付けられた美容外科の基本

そして、もし手術を施す場合でも、患者本人が持つ良さを生かし、「最小限の手術で最大の効果」を出すことを基本としている。

横浜市立大学医学部形成外科の非常勤講師も務める盛院長。16年間にもわたって日本の臨床現場で最先端の技術を学び、美容外科の本質を熟知しているからこそ、患者さんにそうした姿勢を貫けるのだ。足や手の傷を治すのとは根本的に異なり、手術などによっていままでも以上に顔を美しく、若返らせることは、臨床で磨かれた高度な技術があってこそ可能だ。

「まず気軽に相談に来ていただければうれしい。女性にとって顔は命より大切なもの。ここでは、患者さん本人が心から満足できる道をいっしょに探っていくことを大切にしています」と盛院長は話している。



「精神的な健康を取り戻すこと」が
私たちの主義 盛・美容外科

盛 虹明 sheng hong ming

横浜市立大学医学部形成外科などを経て、2004年6月に上海へ帰国し、盛・美容外科を開業した。日本形成外科学会、日本美容外科学会会員。